

小川 現樹 (Utsuki OGAWA)

学位：学士（文学）

略歴：愛知学院大学文学部宗教学科卒業

民間企業において人事責任者（主担当：採用・研修・人事評価制度・社内規程）

専門分野：キャリアデザイン、人的資源管理論

研究課題：若年者のキャリア形成と中小企業の人材育成／中小企業における社員教育と人事評価制度
高校生、大学生の就職と IT リテラシー

【著書】

- ・『親子のための就職学 ～親バカはいいけど、バカ親になるな～』（流行発信、2015 年 12 月）

【論文】

- ・「キャリア科目における PBL の実施」（『愛知文教大学論叢』第 26 巻、2024 年 2 月）
- ・「オンラインコミュニケーションについての事例研究」（『愛知文教大学論叢』第 24 巻、2022 年 2 月）
- ・「単純接触効果とオンラインでのラポール形成の問題～オンラインキャリア面談を実施しての考察～」（『愛知文教大学論叢』第 23 巻、2021 年 2 月）

【講演・その他】

- ・「ボーイスカウト学生と企業とのリクルート懇談会」（日本ボーイスカウト愛知連盟、2026 年 2 月）
- ・「企業の採用力強化プログラム「多様化する新卒採用」～多様化する新卒採用 効果的に学生を集めるためのアプローチ方法を考えよう！」（茨城県産業戦略部労働政策課、2024 年 7 月～9 月）
- ・「キャリアの考え方とキャリアポートフォリオ」（出張授業：愛知県立春日井東高等学、2023 年～）
- ・「目標設定と PDCA サイクル」（出張授業：愛知県立春日井東高等学校、2023 年～）
- ・「企業の採用力強化プログラム「多様化する新卒採用」～効果的に学生を集めるための アプローチ方法を考えよう！」（茨城県産業戦略部労働政策課、2023 年 6 月～8 月）
- ・「オール岐阜企業フェス ONLINE」（岐阜県主催、2021 年度）
- ・『日本キャリアデザイン学会第 16 回研究大会部会レポート』（日本キャリアデザイン学会、2019 年）
- ・「自分に合う福祉の仕事の選び方」（三重県社会福祉協議会、2019 年 7 月）
- ・「キャリアの考え方」（愛知学院大学文学部基礎セミナーⅡ、2016 年～）
- ・「3 年生向け就職ガイダンス」（名古屋市立西陵高等学校、2016 年～2021 年）
- ・「就職ガイダンス」（厚生労働省委託事業、2015 年度～）
- ・「情報処理科 2 年生外部講師授業」（名古屋市立名古屋商業高等学校、2007 年～2022 年）
- ・全国の大学・高校・団体でのキャリアガイダンス、人材活用・人事制度に関する講演活動（2005 年～）
- ・企業、団体での新入社員研修、階層別研修、営業研修などの研修実績多数（2000 年～）

【所属学会】

日本キャリア教育学会、日本キャリアデザイン学会

令和 8（2026）年度ティーチングポートフォリオ

氏 名	小川現樹	職位／役職	准教授／キャリア・広報センター長
-----	------	-------	------------------

1. 教育の理念

「急激に変化する現代社会を生き抜く人材の育成」という建学の精神を実現すべく、キャリア教育の観点から「社会人基礎力の醸成」と読み替えて教育にあたっている。ディプロマポリシーにおいても「社会と言語の関係についての理解に基づく言語運用能力、日本文化についての知識・見識、人間についての知識・見識、多文化共生に必要な知識・見識、社会人としての基礎的な能力を修得する。」とあることから、学生たちが学生生活の中でいかにこれらを満たす社会人になりうるかを考え、教育を行っている。

2. 教育活動の内容

2025 年度

【担当科目】

- 春期 大学の学びとキャリア設計（留学生 1 年次必修科目：再履修者のみ）
キャリアデザインⅠ（一般生・留学生 2 年次必修科目：2 クラス編成）
キャリアプランニング（一般生 3 年次必修科目）
キャリアプランニングⅠ（留学生 3 年次必修科目）
プレゼンテーションスキル（留学生 3 年次必修科目）
アカデミアゼミ C
ことばとネゴシエーション（2 年次以上選択必修科目）
- 秋期 キャリア形成論（一般生 1 年次必修科目）
キャリア入門（留学生 1 年次必修科目）
キャリアデザインⅡ（一般生・留学生 2 年次必修科目：2 クラス編成）
キャリアプランニングⅡ（留学生 3 年次必修科目）
アカデミアゼミ D

※キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ、キャリア形成論とキャリア入門、キャリアプランニングとキャリアプランニングⅠは一般生・留学生の合同開講科目

【部活動顧問】

バレーボール部

【学生指導】

キャリアガイダンス・キャリアセンター講座の開講（3 年次向け 12 コマ・4 年次向け 6 コマ）
キャリア面談・進路面談（オンライン、対面）
模擬面接・エントリーシート添削（オンライン、対面）等

2026 年度

【担当科目】

- 春期 キャリアデザインⅠ（一般生・留学生 2 年次必修科目：2 クラス編成）
キャリアプランニング（一般生 3 年次必修科目）

キャリアプランニングⅠ（留学生 3 年次必修科目）
プレゼンテーションスキル（留学生 3 年次必修科目）
アカデミアゼミ A
ことばとネゴシエーション（2 年次以上選択必修科目）
秋期 キャリア形成論（一般生・留学生 1 年次必修科目）
キャリアデザインⅡ（一般生・留学生 2 年次必修科目：2 クラス編成）
キャリアプランニングⅡ（留学生 3 年次必修科目）
アカデミアゼミ B
※キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ、キャリア形成論、キャリアプランニングとキャリア
プランニングⅠは一般生・留学生の合同開講科目

【部活動顧問】

バレーボール部

【学生指導】

キャリアガイダンス・キャリアセンター講座の開講（3 年次向け 20 コマ・4 年次向け 6 コマ）
キャリア面談・進路面談（オンライン、対面）
模擬面接・エントリーシート添削（オンライン、対面）等

3. 教育の方法

授業評価アンケートの意見も参考に、授業運営の対応を変化させている。

1 年次から 3 年次までの必修科目（キャリア形成論・キャリアデザイン・キャリアプランニング・プレゼンテーションスキル）については、上述の教育理念の達成のため、課題発見・目標設定・計画・実行・振り返りのプロセスを、学生自身が主体性をもって学ぶことで、その意義を理解いただくようにしている。社会の仕組みと現状を知る事、そのなかで自らの夢や目標を見定め、そこに向かってどのような学びを得ることができるか、を考えられるような授業を行っている。個人ワークからグループワークの流れの中で、自ら考えそして共有（プレゼンテーション）できるようになるよう、教員からのアプローチ（対面・Google Classroom を積極活用）も積極的に行っている。

授業内の課題に関して、シラバスにも記してある通り成績評価の配点は高い。なぜなら、仕事をするうえで重要な要素、そのなかでも「規律性」「納期・品質を守る」「協調性」を理解していただくためである。これは一般学生であっても留学生であっても、求める内容に差はない。

選択必修科目（ことばとネゴシエーション）については、学生個々の自主性を重視し、就職活動や働く上での実践的なスキルについて伝えている。

4. 教育活動の成果・評価と改善方策

大学生活での目標設定の大切さや、ビジネスシーンで最低限必要な PDCA サイクルの実践などを通じて、社会について知ることの第一歩となる。授業内ではグループでの取り組みや個人としての取り組みも多く、高校までの「教えてもらう」スタンスから如何に「自ら学ぶ」スタンスに変えていけるかがカギになってくる。しっかりと前向きに取り組んでいただける方にとっては、今後の学生生活の礎を築くことが出来る機会となるが、受動的な学生にとっては少々取り組みがたい要素もあった様子。しかしながら、あくまでも「社会人基礎力の醸成」をターゲットに授業展開していることから、本学のディプロ

マポリシーを視野に入れたときに、講義形式のみの授業は考え辛いのも事実である。

キャリアとは、自らが歩んできた道のりと現在の立ち位置の振り返り。そして未来へ向けての展望も考えなければならず、自分自身のことを知ることから始める必要がある。

受け持つ科目の特性上、これまでの経験だけでなく**教員自身が社会の現状を積極的に体験すること、あるいは社会への参画が重要になると考えている**。そのためにも、中小企業から大企業まであらゆる企業様との接点を持ち、経営者や人事採用担当者の抱える課題解決の手助けになるような勉強会も定期的に実施している。ここで得られた情報も学生にフィードバックしている。

5. 今後の目標

学生においては、就職ポートフォリオとしての位置付けで活用している、「**月間 PDCA 実践シート**」の継続活用を通じて、PDCA サイクルを自然に回すことができるようになっていただきたい。これを行うことで、社会人基礎力の「**課題発見力から実行力**」までの力を身につけることが出来る。

また、「**チームで働く力の全般**」については、企業様との共同プロジェクト（Project Based Learning）を始めとした授業内でのグループワークまたはアカデミアゼミでの活動において、身につけることが出来ると考える。そのためには能動的な学びが必要となるため、授業内においても学生たちが主体性をもって取り組めるような工夫をする。

社会に出れば、知己のメンバーや友人同士で仕事を進められることは稀である。この機会を利用し、「**与えられた環境で、最大限の成果を残す**」ための学びになることを期待する。